

リスクマネジメント

2019年度にありたい姿

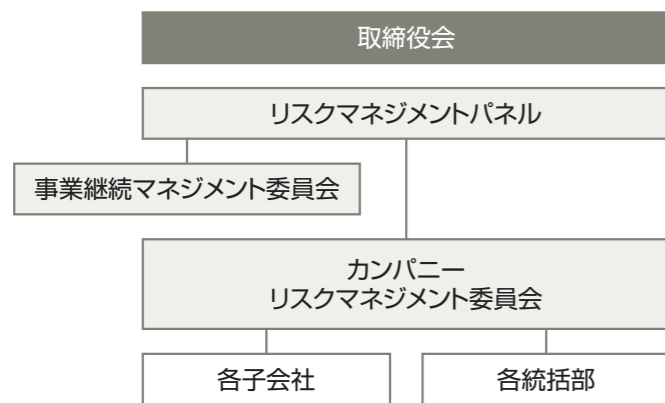
海外グループ会社を含めた荏原グループの全従業員が荏原らしさ及び行動基準を共通のアイデンティティと価値観として共有します。すべてのグループ会社においてグループ共通のリスク管理指針に基づきリスクを予見し未然に防止する体制の構築を目指します。

リスクマネジメントの基本方針

荏原グループの健全な存続発展を阻むあらゆるリスクを最小化するために、従来型の「発現した個別リスクへの対応」を中心とした活動から「リスクを予見し未然に防止すること」に重点を置いたリスクマネジメントに転換を図っています。そのために、荏原グループの倫理体型の基本である「荏原らしさ」を踏まえた従業員一人ひとりの意識改革とその実践こそ事業の円滑な基盤となるものと考え、重点的に取り組んでいきます。

[詳細は統合報告書 >>>](#)

リスクマネジメントの体制



■ 対象とする主なリスク

- コンプライアンスリスク
- 財務報告の信頼性に関わるリスク
- 営業案件リスク
- 投融資損失リスク
- 環境リスク
- その他業務リスク
- 事故、自然災害、感染症等の非業務要因によって引き起こされる種類、性質のリスク

機関	目的	構成
リスクマネジメントパネル	荏原グループのリスクマネジメント活動の統括、総合的な審議、改善指導・支援	メンバー：全執行役、議長：代表執行役社長 事務局：内部統制・リスク管理統括部
事業継続マネジメント委員会	大規模災害時における事業継続	メンバー：全執行役、委員長：代表執行役社長 事務局：内部統制・リスク管理統括部
カンパニーリスクマネジメント委員会	カンパニー及び傘下の子会社における個別の営業案件リスク・投融資損失リスクへの対応、及びリスクマネジメント活動(RMP決定事項を含む)の展開	メンバー：カンパニープレジデントが任命した者 委員長：カンパニープレジデント

2019年度のありたい姿を支えるリスクマネジメント体制の構築

当社はグループリスクを最小化する手段として、2014年に労働安全、危険物管理、安全保障貿易管理、環境保全等のリスクに関する対応状況について、海外グループ会社に調査を行い、それを基に2015年にグループ共通のリスク管理指針としてリスクマネジメントガイドラインを展開しました。2019年までに、対象とした海外グループ会社においてこれらの項目におけるリスク管理レベルを達成するため、各社にて行動計画を作成し、取り組んでいます。

今後のさらなる海外事業拡大に備え、誘拐、テロ等を始めとする海外緊急事態の対応体制整備に取り組んでいます。



内部統制・リスク管理統括部長
中山 亨

2015年度の目標と成果

重点事項	目標	成果
企業倫理の理解と浸透	国内外グループ会社に荏原グループの企業倫理を浸透させる。	● 海外子会社17社の561名に荏原らしさ研修を実施し、理解度99%を達成した。 ● 国内子会社を対象とするCSR研修(eラーニング)を実施し、理解度97%、受講率94%を達成した。
リスクマネジメント体制の構築推進	海外子会社においてリスクマネジメントガイドラインに基づく行動計画を作成し、リスク管理レベル達成に取り組む。	対象とした海外子会社28社において、行動計画を作成し、各社取締役会に報告した。各社整備に取り組む。
事業継続マネジメントシステム(BCMS*1)の構築	PDCA*2サイクルを通じてBCMSの適切性・実効性を向上させる。	● 荏原の全国の拠点において、BCMS年度計画に基づき、各事業所、事務所、事業カンパニーが組織ごとに年度計画を策定し、災害対応訓練や各種の整備を行った。 ● 各組織の活動をBCM委員会が評価し、継続的改善に活かした。
内部統制	グループ内部統制の改善活動の継続実施及びグループ管理体制を充実させる。	2014年に全子会社に展開した「内部統制自己点検ガイドライン*3」に基づき内部統制整備状況の継続的確認、改善に取り組んだ。
情報セキュリティ	E-Plan2016の施策に適合するグローバル体制構築の計画策定・実施及びグループ各社の規程類の整備を推進する。	● 荏原が情報セキュリティ基本規程及び関連規程を改訂した。 ● 情報セキュリティガイドを作成し、グループ会社にも展開し、情報セキュリティの維持推進を図っている。

2015年度の活動：リスクマネジメントガイドライン(RMGL)の展開

グループ全体でリスクマネジメント活動を強化するため、CSR方針を基に労働安全、危険物管理、安全保障貿易管理、環境保全等をテーマとして選定し、RMGLを作成し、海外子会社28社に展開しました。海外子会社各社において2016年までに中間目標、2019年までに整備方針の全項目を達成するよう、行動計画を策定し、リスク管理レベルの向上に取り組んでいます。内部統制部門や各分野の専門部署が現地を訪問し、状況調査及び改善に向けた助言・支援等を行っています。

RMGLの項目

大分類項目	中分類項目
1 荏原らしさ	荏原らしさ
	荏原グループ行動基準
2 公正取引	不公正な競争による取引の禁止
	ベンダー保護
3 環境	大気汚染防止
	水質汚染防止
	廃棄物管理
4 安全保障貿易管理	
5 人権	従業員の安全
	火災予防
6 労働安全	火災予防
	危険物管理

RMGLの運用プロセス



*1 BCMS: Business Continuity Management System

*2 PDCA: Plan→Do→Check→Actionのシステムによる継続的な改善

*3 内部統制自己点検ガイドライン: 荏原グループ各社が主体的に内部統制を整備・運用・改善するための自己点検指針

2016年度の課題と目標

重点事項	2016年度の課題	2016年度の目標	2016年度活動計画
企業倫理の 理解と浸透	<p>荏原及び国内子会社：人権、多様性の尊重、コミュニケーション活性化のための施策実施。</p> <p>海外子会社：管理職以外の従業員に対して荏原らしさ浸透活動の実施。</p>	<p>荏原及び国内子会社：2015年度コンプライアンスアンケートの結果から見えた職場のCSR課題を従業員一人ひとりが自覚して行動する。</p> <p>海外子会社：荏原らしさ研修プログラムの多言語化を図る。</p>	<p>荏原及び国内子会社：CSR課題の解決に資する社内研修を行う。</p> <p>海外子会社：管理職以外の従業員に向けて、研修プログラムの多言語化を進める。</p>
リスクマネジメントの 構築推進	<ul style="list-style-type: none"> ●RMGL項目の整備支援を継続。 ●RMGLにて整備した体制の定着化を図るため、日常点検を行うしくみの構築。 	<p>RMGLで整備された事項を日常的な自己点検項目として再整理し、活動の定着化を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●RMGLの項目の中から日常点検を継続すべき事項を抽出し、内部統制自己点検ガイドラインへ移行する。
B C M S	<p>事業継続活動の改善強化。</p>	<p>大規模災害発生時に、いち早く従業員及びその家族の安全を確保し、速やかに事業継続活動及び事業復旧活動を実施するために、訓練等を通じて実効性のある事業継続システムを構築する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●前年のBCM委員会による評価を踏まえ、荏原及び全国の拠点におけるBCMS年度計画を策定し、各事業所、事務所、事業カンパニーが組織ごとに年度計画を策定する。災害対応訓練や各種の整備を行い、継続的改善を図る。 ●誘拐・テロ等の海外緊急事態の対応体制を整備し、海外1拠点を事例としたシミュレーション訓練を実施する。 ●全海外拠点を対象とした緊急連絡体制を整備する。
内部統制	<p>内部統制改善活動の継続実施。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●新たに連結対象となった子会社、M&A等で新たにグループ入りした会社等に対する内部統制体制の整備・構築。 ●規模が拡大する子会社の内部統制体制強化。 	<ul style="list-style-type: none"> ●新たに連結対象になった会社については、本社よりオンサイトによる全社レベルの評価を実施し、改善課題について整備支援を行う。 ●事業拡大が見込まれる会社については、業務プロセスの整備・評価に取り組む。
情報セキュリティ	<p>グループ全体での情報セキュリティ体制の強化。</p>	<p>海外拠点や関連会社での情報管理状況把握、IT環境の把握と改善に取り組む。</p>	<p>ITセキュリティについては、海外子会社におけるIT環境を調査し、必要な対応を継続する。</p>

リスクマネジメントの詳細 >>> 

熊本地震への対応(地震発生～2016年6月末)

日頃から取り組んでいた災害対策訓練の効果により迅速な安否確認、救援物資輸送、サプライチェーンの状況確認、熊本事業所における生産継続を行うことができました。この経験を踏まえ、課題の抽出とBCMSの継続改善に取り組んでいます。

